

## 【ご挨拶】

---

### さらなる歴史を拓く決意を込めて

学校法人大阪観光大学  
理事長 山本 健慈

大阪観光大学は、本年設立 25 周年を迎えました。1985 年に設立された大阪明浄女子短期大学の歴史から数えますと 40 周年ということになります。

本学は、1921 年明浄高等女学校からはじまり、戦後の 1947 年新制中学校、48 年新制高等学校、そして 1985 年この熊取町に大阪明浄女子短期大学を設立、2000 年に 4 年制大学として大阪明浄大学を設立、これを 2006 年大阪観光大学と名称を変更し、今日の至っております。

しかし、その後経営の混乱により大きな困難に陥りましたが、多くの方のご支援により再建され、2022 年 4 月には学校法人大阪観光大学が経営する大学となりました。

大学創立 25 周年にあたり、100 年以上にわたって授業料納入という形で関与し、本学の歴史を築いていただいた市民の方々に深い敬意と感謝をささげたいと思います。本学は、市民のよって築かれた公共的財産として発展してきたわけではありますが、現在は、日本の若者だけでなく、世界、アジアの青年が未来への希望をもって学ぶ高等教育機関として価値ある財産、確固たる地位をえるに至っております。

『大阪観光大学憲章 2022』に基づく教育、研究、社会貢献にとりくむ本学には、ますます日本を含むアジアの若者、そして革新を迫られる観光業界からの大きな期待が寄せられようとしています。

日本ではじめて大学名に「観光」を冠した本学は、南に高野・熊野、北には京都、奈良という古都を望み、また関西国際空港に隣接するという＜観光＞を究め学ぶことのできる最適な場に位置することもあり、日本の観光学研究、観光学教育を牽引する可能性と責務をもっていると考えております。

少子化のなかで再編縮小が予測される日本の高等教育機関の未来ではありますが、本学は、日本の観光学研究、観光学教育を牽引する可能性と責務の遂行を、22 世紀にむけて激変する日本、アジア、世界を見通しながら追求する決意を新たにします。

## 【ご挨拶】

---

大阪観光大学  
学長 山田 良治

大阪観光大学は、熊取キャンパス 40 年、大学創立 25 年の節目を迎えましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

昔からよく学生たちに、「人生において 25 歳が大きな節目だよ」と言ってきたことを思い起こします。あくまで私自身の経験に基づくものなのですが、成長過程でいろいろな紆余曲折を味わうけれども、25 歳になるとおとなの人間として一旦落ち着くこと、そして、そこから急に視界が開け、歳の差を超えて一気に人間関係が広がるよ、という意味です。

大阪観光大学は、今まさにそのような時を迎えています。

この 21 世紀最初の四半世紀に、観光は日本を含む世界中の人々にとって、生きていく上で不可欠な要素となり、観光産業は世界最大のサービス業に成長しました。社会・経済のこの間の劇的な変化は、観光を対象とする高等教育と研究の発展を強く要請しています。

大阪観光大学は、大学名に観光を冠する日本で唯一の 4 年制大学として、こうした社会的期待が発展する中で 25 歳を迎えました。

おとなに成長した大阪観光大学が身につけてきた最大の成果の一つが、新しい観光学の確立です。これを内外に紹介しお示しするために、12 月 24 日に举行される記念式典に際してのシンポジウムでは、「新観光学宣言」をテーマとしました。

いまひとつは、新しい観光学の教育研究の接戦を進める中で、「大阪観光大学憲章 2022」を策定したことです。そこでは、「自由を共に楽しみ、社会を共に生きぬく」という理念が宣言されています。そして、これを教育理念・教育目標として一言で表現したものが、「楽しむ力」の育成です。これは、20 世紀後半以降の既存の教育理念への挑戦という意味を持っています。

25 年間の紆余曲折を経て達成したこれらの成果を携えて、おとなとなった大阪観光大学は新たな船出に旅立ちます。大阪観光大学を取り巻くすべての皆さんとのつながりと共感の輪を飛躍的に広げることにより、共に平和で楽しい世界を実現していきましょう。

## 【ご挨拶】

---

大阪観光大学  
副学長／観光学部長 教授 小原 一博

この度、本学は、熊取キャンパス開設 40 周年、そして大学創立 25 周年という節目の年を迎えることができました。これまで本学と共に歩んでくださった全ての皆さまに、心からの感謝を申し上げます。

本学は、2022 年（令和 4 年）より新たに「自由を共に楽しみ、社会を共に生き抜く」という理念を掲げ、さらなる未来へと向けて歩みを進めております。この理念には、我々は一  
人ではなく、仲間と共に学び、互いを尊重しながら未来を創造していく、そのような本学の  
教育の姿勢が示されています。未知を恐れず、目の前の経験を前向きに捉え、そこに価値を  
見出し、周囲と共有する。困難や挑戦を楽しみ、出会いを大切に、他者の喜びを自己の喜  
びとして分かち合う。このような「楽しむ力」を、学生たちと共に育んでいきたいと考えて  
おります。

また、本学は、その名称から明らかなように観光に特化した大学です。観光は、人の心が  
何かを発見した瞬間から誕生します。そして、人と人、地域と地域、文化と文化を結びつけ  
る力があります。本学は、学問及び研究対象としての観光、すなわち「観光学」を確立する  
ために、観光が持つ力をより深く理解し、人類の未来に繋がる架け橋となる学術的探求を進  
めて参ります。

この記念すべき大切な節目にあたり、私たちはこれまで以上に学生と向き合い、学生が自  
分らしく成長し世界へ羽ばたいていくことができる環境を大切にしながら、地域と共に、新  
たな観光の可能性を切り拓いて参ります。これからも皆さまの変わらぬご支援とご指導を  
賜りますよう、心よりお願い申し上げます。そして、本学に関わる全ての方々に心からの敬  
意を表し、益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

## 【ご挨拶】

---

大阪観光大学  
国際交流学部長 教授 小森 三恵

熊取キャンパス創立 40 周年、大学創立 25 周年という節目にあたり、これまで本学の歩みを支えてこられたすべての皆様に深く感謝申し上げます。

私は 2013 年、国際交流学部の開設とともに本学に着任し、以来、心理学を通じてリベラルアーツ教育に携わってまいりました。国際交流学部は、日本文化への理解を土台とし、異文化間の対話と協働により社会を生きぬくことのできるグローバル人材の育成を目的としていました。初年度の入学者は 6 名と厳しい船出でしたが、学びのコンセプトが留学生に訴求したこともあり、多様な背景をもつ学生たちが次第に集まる学部に成長しました。人間の普遍性と多様性を探究する心理学を学ぶうえで大変恵まれた環境であり、私自身も学生たちとの交流を楽しみながら、日々新たな発見を得ています。

2022 年 4 月、本学は新法人の発足のもと、新たに「自由を共に楽しみ、社会を共に生きぬく」を教育理念として掲げました。国際交流学部は同年に募集を停止し、2026 年 3 月に最後の入学生が卒業を迎えますが、その理念は「楽しむ力・生きぬく力」へと発展的に継承され、現在の観光学教育の礎となっています。

私は現在、楽しむ力研究会のメンバーとして、学修成果としての「楽しむ力」の可視化や評価指標化に取り組んでいます。偏差値や学力偏重への批判はあるものの、大学教育はいまだその枠組みから脱却できてはいません。しかし、本学のように多様で個性豊かな学生を抱える大学では、知識やスキル以外の側面における学生の成長を実感する機会が多く、そのような社会的・感性的な能力を測る指標の必要性を強く感じてきました。「楽しむ力」は、まさにその指標となり得るものです。大阪観光大学が「楽しむ力」を核に観光学教育、ひいては大学教育の変革をけん引していくことを願うとともに、私自身もその一員として教育・研究活動に一層力を注いでまいり所存です。

今後とも本学の活動にご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 【ご挨拶】

---

学校法人大阪観光大学  
法人本部長 黒田 能史

熊取キャンパス開設40周年、大学創立25周年という節目を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。これまで本学を支えてこられた多くの教職員、学生・保護者、卒業生の皆さま、そして地域の皆さまに深く感謝申し上げます。

キャンパス開設から40年の歩みの中で、本学は社会・教育環境の変化の波を受けながら、幾度となく困難な状況に直面してきました。特に2020年の民事再生前後の数年間、コロナ禍とも重なり大学存続の危機でした。今振り返っても、あの時あの場所での張りつめた空気や光景がよみがえりますが、同時に、未来へ向けて小さな手ごたえを感じた時でもありました。

学生の学びを止めない教職員、資金援助をいただいた支援者、再生手続を主導した管財人・理事長職務代行者、渦中のなかで責任を引き受けた役員・評議員、そして温かく見守り続けた卒業生、学生の学びの継続を最優先に考え行動し、危機に対処した姿は今も記憶に残っています。

私は30年以上にわたりこの大学に身を置いてまいりましたが、この大学には学生の成長を信じ、教え、支える人たちがいて、それを喜びと感じている人たちがいることを知っています。そして、その人たちの一つひとつの積み重ねが、大学の信頼と魅力を形づくっているのです。

現在、本学は建学の理念である「自由を共に楽しみ、社会を共に生きぬく」をもとに、教育・研究の充実や地域貢献に向けて大学運営を進めています。私自身は経営の安定化を最優先に考え、透明性の確保や自律性をもった持続可能な大学づくりに取り組んでいます。これらの取り組みは、単なる制度上、形式上のことではなく本学独自の使命・理念を支える大切な基盤だと考えています。

この節目を迎えるにあたり、学生、教職員、大学に関わる全ての方々が、大阪・熊取の地でこれからも安心して教育・研究に取り組み、そして支え合う場であり続けることを心から願っています。

## 【ご挨拶】

---

大阪観光大学  
同窓会長 濱元 洋行

このたび、母校である大阪観光大学が創立 25 周年という記念すべき四半世紀の節目を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。

私は 2000 年に開学した大阪明浄大学(当時)に 1 期生として入学しました。現在は大阪観光大学同窓会の会長を務めております。大学を卒業した同窓生を代表し、大学の発展に尽力された全ての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

私たちの学生時代は、まさに「ゼロからのスタート」でした。大阪明浄女子短期大学の学生の皆さんに助けをいただきながら、制度も伝統もこれから形づくられていく黎明期で、日々試行錯誤の連続でした。熊取キャンパスで先生方と私たち学生が一体となり過ごした 4 年間で、私はいまでも懐かしく思い出します。全てが手探りでしたが、学生時代に経験したことは現在の私の仕事や人生の礎となっています。

特に学友会執行委員および大学祭実行委員で企画・運営し、学生全員が参加した大学祭(当時は『杏祭』という名称でした)は私の青春であったと言っても過言ではありません。卒業後、私は様々な業界で経験を積んできましたが、どの業界でも大学で学んだことを生かすことができました。

現在、大学同窓会長として各地で活躍する同窓生の近況に触れるたび、母校が世界に通用する観光学の拠点へと着実に進化していることを感じています。特に、国際的な評価である「TedQual」認証がされたことは、同窓生にとっても大きな誇りです。

観光産業が急速に変化する現代において、本学が大切にしてきた国際交流や地域連携に根ざした教育は、まさに社会の期待に応える学びであり、未来の観光界を支える人材を育てる原動力となっています。同窓生の活躍は、母校が培ってきた教育の質を明確に示すものであり、次代を担う学生にとっても力強い指針となるはずです。

大阪観光大学同窓会は、これからも母校の発展と学生の成長を末永く支えていく所存です。

新たな飛躍の四半世紀に向け、心よりエールを送ります。

## 【ご挨拶】

大阪観光大学  
学友会長 王 磊

大阪観光大学創立 25 周年、誠におめでとうございます。学友会を代表し、心よりお祝い申し上げます。四半世紀という年月の中で、本学は「観光」を軸に人と地域、そして世界を結ぶ学びの場として発展してまいりました。卒業生の一人ひとりがそれぞれの分野で活躍し、その姿が在学生の励みとなっていることを、学友会として大変誇りに感じております。

これまで大学を支えてこられた先生方、職員の皆様、地域社会の方々に深く感謝申し上げます。そして、この 25 周年を新たな出発点として、学友会もより一層、大阪観光大学のさらなる発展に向けて、卒業生と在学生の絆を広げてまいります。大阪観光大学が今後も時代に求められる人材を育成し、社会に貢献し続けることを心より願っております。改めて、創立 25 周年の節目にあたり、関係者の皆様のご尽力に敬意を表し、さらなる発展をお祈り申し上げます。

